

「園」を中心とした地域づくりの現状と課題

—まちの保育園を事例として—

経営学部 経営学科 梅村ゼミ

B4R11002 赤木希美

【卒業論文概要】

現在、社会問題のひとつとして挙げられている待機児童問題や保育士不足により、保育園や幼稚園に注目が集まっている。また、様々な社会情勢の変化に伴い、保育ニーズ・保育サービスも大きな変化を遂げている。同時に、特に都心部では子育てと地域の関わりの希薄化は顕著に現われてきており、そこに目をつけた経営者たちは次々に地域と関わるユニークな園を創り出すようになった。その中でもナチュラルジャパン株式会社代表取締役会長の松本理寿輝さんは「まちの保育園」を創り出し、“まちぐるみの保育”をコンセプトとして挙げている。小竹向原にある保育園では、カフェとギャラリーが併設されており、一般の方も気軽に入れる形になっているが、こどもを預ける場所がここまでオープンでいいのかという不安もよぎる。そこで、本論文の目的は、園と地域を結ぶ「まちの保育園」を調査し、園×〇〇という形態で地域と関わることで、双方にどのような影響をもたらすのかを考察し、今後の可能性として新たな園と地域のあり方を構想することである。

まず、園と地域のあり方の歴史を検証した。すると現代の人が、園に対して地域との関わりを求めるようになり、園と地域の希薄化が明らかになった。しかし、園が誕生して以来ずっと求められてきたわけではない。そこで園の存立を考えると、オープン→クローズ→オープンという流れに至った。親や保育者以外に隣近所も加わり保育をしていた時代から、事件等を踏まえて親や保育者だけのクローズ保育になった。そして近年、また親や保育者以外の地域を交えた保育をしようとして、カフェ等が併設された「まちの保育園」が立ち上がった。まちの保育園以外において、施設が併設されている園を調査すると、公共公園やスポーツ施設、老人ホーム、美容室など様々な施設が併設されていることが明らかになった。その中で駅や老人ホームは、働く人にとってのニーズや、保育士不足の中で助かるといったもので、直接的な地域への影響は見られなかった。しかしながら、まちの保育園は地域づくりを目的に創られている。それらを踏まえ、私は園×銭湯を提案する。こどもたちは親や保育者以外との地域の人と関わる機会を創出し、加えて親たちも他の親や地域との関わりが深くなり、孤育てからの脱却をすることができる。地域の方と顔見知りや知り合いになることで、地域を身近に感じることができるのである。